

ドローンを使っての防災活動・建築写真撮影

2019年2月20日(水)、四日市ポートビルを会場に、恒例の森羅万象匠塾(建築外から学ぶ講座)が開催された。今年には三重県ドローン協会理事の山田義郎氏を迎え、近年さまざまな分野で注目されているドローンについてお話を伺った。



ドローンを掲げる講師と同時撮影された会場

を伺った。

協会設立の経緯と背景、三重県・四日市市などの自治体との防災協定締結状況の話のあと、各機種の特徴や撮影した映像・写真の紹介をしていただいた。いずれもかなりのクオリティで、技術の進歩とともに社会での活用が広がっていることを実感したが、山田氏は飛行や撮影以上にその利用目的の重要性を力説された。

また日本での市場規模は、2015年の104億から2020年には1138億円に達すると見込まれているとのこと。急成長に合わせて改正航空

法や条例などが整備されてきたが、それらの遵守だけでなくモラルが重要であると強調されていた。

座学終了後、ポートビル前の屋外でドローンの飛行実演の予定であったが、強風による安全への配慮から、ロビーでの離陸実演のみとなったが、簡単な操作性と離陸後の安定性を充分実感することができ、知識としてだけではない実りある講座となった。



久安典之 (JIA三重) |
久安典之建築研究所